

---

小 池 昌 人

議長（村松 積） 次に、1番、小池昌人君、質問を許します。登壇願います。

1番（小池 昌人） 1番、小池昌人です。

私は、先に通告いたしましたとおり、地域交通の関係につきまして質問をさせていただきます。

信南交通が一昨年12月、2010年3月をめどに直営、飯伊地区の一般道路路線バス直営からの撤退方針を示したのを受けた対応で、撤退予定の基幹路線の3路線、阿島循環線、上市田線、駒場線でこの4月から代替の新交通の実証運行が始まりました。当村にかかわり深い阿南線についても、同様に信南交通が地方路線のバス運行を撤退することを受けての地域公共交通活性化及び再生法に基づき、下伊那南部地域公共交通対策協議会が設立され、この秋口から南部地域の基幹バスの運行が開始されるべく、具体的な計画が策定されてきておられると思います。

先の3月第1回定例議会一般質問の答弁や全員協議会の中で説明もありましたが、その後の進捗状況や利用者がどれくらいあるかアンケートをとり、その結果により検討していくというアンケートの分析結果はどのようであったのか。また、それを踏まえての運行計画について伺います。

また、南部地域の基幹バス運行に対する事業経費について、全体としてどのくらいの経費試算になり、また国・県、生活交通システム構築支援事業補助金からの事業費補助の見込みはいかがでしょうか。

次に、福祉バスとの連携について伺います。

広域協議会の連携計画の中で、地域公共交通を基幹路線、準基幹路線、そして各自治体内を運行し、基幹、準基幹路線に接続する路線を主線と3分類しております。

下條村村内の福祉バスは、主線路線としての位置付けになると思われれます。現在お年寄りや他の交通機関のない人たちにとりまして、きめ細やかで親切な運行がなされており好評を得ております。

先に示されました南部地域の基幹バス路線時刻表案でございますけれども、等入れますと朝の7時の川路第1便、7時39分の第2便の高校生の通学を対象にしたバスはともかくといたしまして、第5番目の飯田方面飯田病院、第4番目の阿南方面から第6番目の阿

南病院へ行く方について、基幹路線と福祉バスの連携を図ることにより、基幹バス停に近い利用者の方は比較的良いのですが、国道から離れた地域の方々のこれまで以上の利便性が図れると思われませんが、福祉バスとの連携についてどのようにお考えでしょうか。

それから今朝方も雨が降りましたけれども、本日のような雨の日や風雨の悪天候の時、バス停において風雨をよけたり腰掛けられるバス待合所があれば、利用者の便宜が図られるのではないかと思います。基幹路線におけるバス停や福祉バス、あるいは保育園バスにおける地域ごとの寄り合いの場所にバス待合所の設置をする考え方はないか、村長のお考えをお伺いいたします。

議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願います。

村長（伊藤 喜平） 小池議員の質問にお答えいたします。

今、議員話しておりますように、国としても地域公共交通機関、これは全国的な問題でございまして、撤退がもう盛んでございます。

そういうことで、これではいけないじゃないかということで、「地域公共交通活性化再生総合事業」というのに平成20年度から積極的に取り組んでおります。

今までのところはソフト面でございまして、どういうふうな組み立て。これは免許事業でございまして、国土交通省の非常にこの制約があるわけでございます。一般大衆、料金をもって運行をするということでございまして、制約のある中で地域に合ったものはどういうものがいいかということで、ソフト事業でいろいろ検討いたしました。ソフト事業につきましては、相当手厚い補助をもらって南部地域、これは北部地域、西部地域と地域性によってまるで違うわけございまして、西部はこの前言ったと思いますけれども、153号が、あの地域はこの清内路だけ離れまして、ポーンと真ん真ん中を通っておるわけございまして、非常にやりやすいということで、4年くらい前からもう根羽の発の阿智止まりというのを何便もやっておりまして、非常に成果が。

それで阿智からどういうふうに阿智校に振り向くとか振り替えるとか、飯田へ行くバスに乗り換えるとかいうことをやっておるわけでございますけれども、北部もこれも大変でございますけれども、一番大変なのは南部でございます。もう泰阜は列外でございまして、天龍から向こうは天龍村も、これは全然バスの恩恵ということはどうやっても加われないということで、天龍村には飯田線を主体として考えるしかない。泰阜は私は「道の駅ま

で出てこい」と言うんですけれども、なかなかこの広すぎてしまって、これをまとめてまた道の駅へもってきてそれからまた飯田へ行くというの、これも大変だということで、竜峡駅までいくような今仮定というか仮定にというかも現実を使い、路線も作りました。

それからこっちの151号沿線でございますけれども、あの信南交通が、この南部だけは「もう駄目です、あんたもうこれでいいですよ」というふうに言われるまでは、「私も一生懸命やる」というこの提言があったということだけは、強制的に引き上げることなしに、提言があったということはお伝えしておかなければいけないということと同時に、利用者が少ない。利用者が少ないから減便する。減便するからますます使い勝手が悪くなるということで、悪循環を繰り返しておったわけでございます、村でもそれなりの赤字補てんをしておったわけでございますけれども、これももう限界だろうということで、今議員申されたように朝高校生2便、売木から。1便は売木から。それから2便は早稲田から川路まで送ります。川路の7時に間に合うのと7時39分に間に合うように送ると。7時までに川路に着くのと7時39分までに川路に着くの。帰りはやはり普通に帰れるのとクラブ活動して帰るのとこの2便出ます。

それから阿南高校行きは、朝1便出ます。帰りは2便来るということでございまして、高校生の通勤通学、この負担というのは相当楽になるうかと思えます。

今、実態調査をしましたところが、この高校生だけで90名が利用するというのでございまして、まあまあこれならいけるのかなということでございます。下條村からは200円、阿南町がいわいからは300円。売木まで行くと400円という料金も設定されております。

それから、朝この本当の今までのバスに代わるものが、7時48分売木発のこれが最後の飯田病院まで9時19分に着くというのが、これが今までの停留所と同じ場所に止まるように運行されます。帰りもそれべくの帰りには2時19分で、これ各駅停車で売木まで行くように組んでおります。

これをこれから実証運行ということで、3年間実証運行をするということで、できれば8月からしたいなということでございまして、これ1/2の国庫補助が付くということでございます。それらを利用して定着化させて、そしてまたより乗客人員も増やしながら固定したものにしていきたいなと思っております。

村内の福祉バス、これとは全然その性格が違うもんでございますので、これからはこれが実証運行する中で何か考えていきたいな。例えばデマンド方式なんかも取り入れていきたいなと思っております。

各駅に駐車場を作って、語らいの場だとか雨が降ったらどうだという問題がありますけれども、そこらも利用対効果ということでございまして、趣旨はよく分かる。趣旨が一番いいのは本当にお家までお迎えに行き、そしてお家からお乗せいただくことが一番いいんですけれども、なかなか現実の問題としてそれもどうかと思います。

主要箇所にはやはり作らなければいけないのかなということと同時に、下條村につきましても今度の三遠南信の部分供用において、道の駅を中心にいろいろのお客さんがよく入ってきてくれるようになりました。工場も進出してくれるということでございますので、観光協会とも商工会とも絡めて、またそんなことも新しい事業として取り組む必要性があるなということでございますので、またその面において多目的な待合所というようなものもある程度は考えていかなければならないなと思っておりますので、またご意見それからお考えがありましたらぜひ積極的にご提言いただければとありがたいと思っております。

以上で終わります。

議長（村松 積） 1番、小池昌人君、再質問ありましたら。

1番（小池 昌人） 先ほどの質問の中で、この南部地域のバスを運行するに当たって、試算的にどのくらいのお金がかかってくるのかということ为先ほどちょっと説明させていただきましたが、それから今回の補正予算の中に南部地区南部公共交通対策事業負担金として222万円計上されておるかと思っておりますけれども、それは南部の地域の利用者の利用する自治体の中で応分の負担割ということだと思っておりますけれども、そこら辺の内容が分かりましたらちょっと教えていただきたいと思っております。

村長（伊藤 喜平） 細かいことは課長から報告しますけれども、220万円は8カ月分の運行の費用でございます。そして前には、信南交通にいくらか走ってなくて250万円の村の持ち出しがあったということでございます。

全体的には3,000何万円かかるのを按分するということでございますけれども、その細部にわたっては課長の方から答弁させます。

議長（村松 積） 課長。

総務課長（宮島 俊明） それではお答えいたします。

今の段階です。これまだ実は契約については、今2社ほど選んで南部協議会の方で検討中でございますので、近々結論は出ますが、今のところの概算でいきますと約総費用で1年間に3,400万円くらいかかるという見通しでございます。その1/2の補助がありますので、約1,700万円くらいが南部の町村で割り振るということになります。

この割り振り方につきましては、路線距離と人口割ということでやります。そうしますと、うちで約年間に330万円くらいになりますが、先ほど村長の話のとおり、今度の補正では一応8カ月分ということで見ましたので、220万円という計上をしておるところでございます。

以上であります。

議長（村松 積） 1番、小池昌人君よろしいですか。